県立広島大学の入学者に関する受入方針

◎ 学士課程全体

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

県立広島大学は，次に掲げる「知識・技能」,「思考力・判断力・表現力」,「主体性・協働性」を持っている人に入学してほしいと考えています。入学者選抜にあたっては，学力検査，小論文，面接等により，多面的に資質や意欲を評価し，決定します。

【知識・技能】

・高等学校等での学びを通じて幅広い基礎学力を身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

・物事を様々な視点から捉え，柔軟に思考できる。
・筋道立てて考え，その場にふさわしい表現を用いて伝えることができる。

【主体性・協働性】

・自らの能力の向上を目指し，主体的に学ぶことができる。
・他者を理解しようと努め，協力して物事を行うことができる。
・社会へ貢献したいという意欲を持っている。

◎人間文化学部

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

人間文化学部は，次に掲げる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を持ち，世界のさまざまな文化を理解し，対等な立場で他者と協力し合える人，真に豊かで健康な生活の実現を目指し，生涯にわたる健康の維持・増進に積極的に取り組む人を求めています。

【知識・技能】

文化と社会，生活・身体・健康に関する基礎学力を持っている人

【思考力・判断力・表現力】

文化と社会，生活・身体・健康に係る諸問題について，論理的に思考し，さまざまな観点から多面的に考察し，自分自身の考えをまとめ表現できる人

【主体性・協働性】

文化と社会，生活・身体・健康に係る諸問題に関心を持ち，積極的に取り組む意欲と協力して学修を進めていこうとする態度を持っている人

◎国際文化学科

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

１　基本理念

社会が複雑さを増している現代にあって，人類の平和と進歩に寄与するためには，さまざまな世界の文化を理解し，グローバルな視点をもって平等な立場から協力し合える人材が求められています。

国際文化学科では，地域文化に対する幅広い知識と洞察力を養い，既成概念にとらわれない柔軟な発想で，現代社会に対応できる問題解決能力と外国語運用能力を備えた人材育成を目指しています。

２　人材育成目標

自国の文化についての知識と敬愛の心を持ち，他国の文化，特に英米や東アジアの文化に対する理解を深め，人々の幸福と世界の平和のために行動する人材を育成します。

３　求める学生像

世界を構成するさまざまな文化を理解し，対等な立場で相互に協力し合える人を育成する国際文化学科では，次に掲げる能力を備えた人を，各種の試験により選抜します。

【知識・技能】

英米文化，日本文化，東アジア文化のいずれかに強い関心を持ち，なおかつ基礎的な知識・技能をバランスよく身につけている人。

【思考力・判断力・表現力】

基礎的な学力を身につけた上で，世界のさまざまな文化を複数の視点から相対的に捉えようとする思考への意志を持ち，そうした自身の考えを適切に表現できる能力を身につけている人。

【主体性・協働性】

基礎的な学力を基盤として，主体的に考察を深め，相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持っている人。

４　入学者選抜の基本方針

［一般選抜（前期）］

大学入試センター試験の得点と，本学が行う個別学力検査等の得点の合計点で合否を判定します。大学入試センター試験では，国語，社会，理科又は数学，外国語を課し，知識・技能を中心に教科書レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査の国語と外国語では，記述式の問題を課すことにより，思考・判断・表現力などを評価します。

国語では，本学科で学ぶ上で必要な読解力及び文章表現力を確認するため，国語総合・国語表現・現代文Ａ・現代文Ｂ・古典Ａ・古典Ｂの範囲から出題し，点数化して評価します。

外国語では，本学科で学ぶ上で必要な外国語運用能力を確認するため，コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱの範囲から出題し，点数化して評価します。

【知識・技能】

英米文化，日本文化，東アジア文化のいずれかに強い関心を持ち，なおかつ基礎的な知識・技能をバランスよく身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

基礎的な学力を身につけた上で，世界のさまざまな文化を複数の視点から相対的に捉えようとする思考への意志を持ち，そうした自身の考えを適切に表現できる能力を身につけている。

【主体性・協働性】

基礎的な学力を基盤として，主体的に考察を深め，相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持っている。

［一般選抜（後期）］

大学入試センター試験の得点と，本学が行う個別学力検査等の得点の合計点で合否を判定します。大学入試センター試験では，国語，社会，理科又は数学，外国語を課し，知識・技能を中心に教科書レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査の小論文を課すことにより，思考・判断・表現力などを評価します。

個別学力検査では，本学科で学ぶ上で必要な思考力・独創性・記述力などを確認するため，小論文を課します。小論文では，論理的な思考力，独創性，読解力，基本的な文章の表現力，記述力などについて総合的に判断し，点数化して評価します。

【知識・技能】

英米文化，日本文化，東アジア文化のいずれかに強い関心を持ち，なおかつ基礎的な知識・技能をバランスよく身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

基礎的な学力を身につけた上で，世界のさまざまな文化を複数の視点から相対的に捉えようとする思考への意志を持ち，そうした自身の考えを適切に表現できる能力を身につけている。

【主体性・協働性】

基礎的な学力を基盤として，主体的に考察を深め，相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持っている。

［推薦入試］

県内高等学校等推薦（一般枠）

本学科で学ぶ上で必要な思考力・独創性・記述力などを確認するため，小論文と面接を課します。小論文では思考・判断・表現力を中心に評価し，面接では，本学科で学ぶことに対する意欲と目的意識の高さ，主体性・協働性を中心に評価し，調査書により知識・技能など教科書レベルの基礎学力を確認します。

小論文は，論理的な思考力，独創性，読解力，基本的な文章の表現力，記述力などについて総合的に判断し，点数化して評価します。

面接では，本学科で学ぶことの目的，勉学に対する意欲・志向等について質問し，目的意識の高さ，思考・判断・表現力や主体性・協働性などを総合的に判断し，点数化して評価します。

【知識・技能】

英米文化，日本文化，東アジア文化のいずれかに強い関心を持ち，なおかつ基礎的な知識・技能をバランスよく身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

基礎的な学力を身につけた上で，世界のさまざまな文化を複数の視点から相対的に捉えようとする思考への意志を持ち，そうした自身の考えを適切に表現できる能力を身につけている。

【主体性・協働性】

基礎的な学力を基盤として，主体的に考察を深め，相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持っている。

県内高等学校等推薦（異文化体験枠）

本学科で学ぶ上で必要な思考力・独創性・記述力などを確認するため及び学科アドミッション・ポリシーで「求める学生像」として示した，「世界を構成するさまざまな文化を理解し，対等な立場で相互に協力し合える人」の中核となる能力（「異文化理解能力」と「コミュニケーション能力」）を評価するため，日本語と外国語による面接及び外国語によるエッセイを課します。

日本語による面接では，学修計画書に関する質疑応答を通じて，論理的な思考力，表現力，異文化理解力などを評価します。

外国語による面接では，外国語でのスピーチと質疑応答を通じて，スピーキング能力を評価します。

外国語によるエッセイでは，論理的な思考力，表現力などを含めたライティング能力を評価します。

【知識・技能】

英米文化，日本文化，東アジア文化のいずれかに強い関心を持ち，なおかつ基礎的な知識・技能をバランスよく身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

基礎的な学力を身につけた上で，自身の異文化体験を踏まえて，世界のさまざまな文化を複数の視点から相対的に捉えようとする思考への意志を持ち，そうした自身の考えを適切に表現できる能力を身につけている。

【主体性・協働性】
基礎的な学力を基盤として，自身の異文化体験を踏まえて，主体的に考察を深め，相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持っている。

［帰国生徒特別選抜］
書類審査，現代日本語及び面接の結果を総合して選抜します。現代日本語は論文，評論等から出題し，国際文化学科で学ぶ上で必要な読解力及び文章表現力を点数化して評価します。面接は海外での経験を踏まえて国際文化学科で学ぶことに対する意欲・志向等について質問し，個性の豊かさ，応答の仕方・態度などを総合的に判断し，点数化して評価します。書類審査では教科書レベルの基礎学力を確認します。

【知識・技能】
海外での経験を踏まえて，英米文化，日本文化，東アジア文化のいずれかに強い関心を持ち，なおかつ基礎的な知識・技能をバランスよく身につけている。

【思考力・判断力・表現力】
基礎的な学力を身につけた上で，海外での経験を踏まえて，世界のさまざまな文化を複数の視点から相対的に捉えようとする思考への意志を持ち，そうした自身の考えを適切に表現できる能力を身につけている。

【主体性・協働性】
基礎的な学力を基盤として，海外での経験を踏まえて，主体的に考察を深め，相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持っている。

［外国人留学生特別選抜］
本学科が行う試験及び日本留学試験の結果，TOEFL 又は TOEIC の結果を総合して選抜します。本学科が行う試験は現代日本語及び面接です。現代日本語は論文，評論等から出題し，国際文化学科で学ぶ上で必要な読解力及び文章表現力を点数化して評価します。面接は国際文化学科で学ぶ目的，勉学に対する意欲・志向等について質問し，個性の豊かさ，応答の仕方・態度などを総合的に判断し，点数化して評価します。

【知識・技能】
英米文化，日本文化，東アジア文化のいずれかに強い関心を持ち，なおかつ基礎的な知識・技能をバランスよく身につけているとともに，本学科で学ぶ上で必要な日本語運用能力を有している。

【思考力・判断力・表現力】
基礎的な学力を身につけた上で，母国の文化と世界のさまざまな文化を複数の視点から相対的に捉えようとする思考への意志を持ち，そうした自身の考えを適切に表現できる能力を身につけている。

【主体性・協働性】
基礎的な学力を基盤として，主体的に考察を深め，相互に協力して学修を進めていこうとする意欲を持っている。

◎健康科学科

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1　基本理念

少子高齢社会における，「人間の健康の科学」を考究するとの立場及び「健康増進」，「生活習慣病の予防」などコメディカルな視点から，生体科学，栄養科学，食品科学，健康スポーツ科学などについて，自然科学の分野だけでなく，社会科学的視点も含めた教育・研究を行います。

2　人材育成目標

本学科は，真に豊かで健康な人間生活の実現，長寿社会におけるクオリティ・オブ・ライフの向上，生涯にわたる健康の維持と増進，さらには心身の調和的発達の実現に，他者と協働して主体的かつ積極的に取り組む人材の育成を目指します。

3　求める学生像

（１）人体の仕組みと健康とのかかわりに興味を持っている人
（２）食品・栄養と健康とのかかわりに興味を持っている人
（３）スポーツと健康とのかかわりに興味を持っている人
（４）理科学実験が好きで探究心旺盛な人
（５）管理栄養士などの「一次予防」にかかわる仕事に強い熱意を持っている人
（６）栄養教諭などの「食育」にかかわる仕事に強い熱意を持っている人

4　入学者選抜の基本方針

（１）【知識・理解】
次のアもしくはイに該当することが求められます。
ア　高等学校の教育課程を尊重し，高等学校で履修した国語，社会，理科，数学，外国語について，教科書レベルの基礎的な学力を備えているかどうかを重視します。特に，課題を解く際に発揮される基礎的な学力についての深く幅広い理解を求めます。
イ　県内専門高等学校などで履修した国語，社会，理科，数学，外国語について，教科書レベルの基礎的な学力を備えているかどうかを重視します。あわせて，専門とする農業，家庭，もしくは体育に関する基礎的な学力とそれらいずれかに対する深く幅広い理解を求めます。

（２）**【思考・判断】**
論理的に思考し，さまざまな観点から多面的に考察し，自分の考えをまとめる能力を備えていることを求めます。
（３）**【関心・意欲・態度】**
「人体の仕組みと健康」,「食品・栄養と健康」,「スポーツと健康」に関心を持ち，健康の維持・増進と心身の調和的発達の実現に，積極的に取り組む意欲を持っていることを求めます。
（４）**【技能・表現】**
健康科学に関する自分の考えを，日本語で他者にも分かりやすく表現する能力を備えていることを求めます。

［一般選抜（前期）］
入学者選抜の基本方針（１）のアを中心に，大学入試センター試験と個別学力検査の得点を総合的に判断する選抜を行います。大学入試センター試験では幅広い基礎学力をみるために５教科６科目（又は７科目）を，個別学力検査では小論文（説明文の作成を含む）を課しています。個別学力検査（小論文）では，論文や資料・図表などを題材として，「健康科学科で学ぶ上で必要な読解力，論理的思考力，文章表現力などをみるための設問」と「理科（化学基礎及び生物基礎）の学力をみるための設問」を行い，これらを総合的に判断し，点数化して評価します。

［一般選抜（後期）］
入学者選抜の基本方針（１）のアを中心に大学入試センター試験を課します。あわせて，入学者選抜の基本方針の（２），（３），（４）を重視した面接を行い，大学入試センター試験と面接双方の結果を総合的に判断します。大学入試センター試験においては，幅広い基礎学力をみるために５教科６科目（又は７科目）を課しています。面接では，健康科学に対する関心や学習意欲について試問するとともに，健康や健康科学に関する知識，さらには理科（化学基礎又は生物基礎のいずれかを選択）の教科書的な基礎的事項についての試問を行います。本学科で学ぶために必要となる論理的思考力や理解力，また，まとめる力などについて，面接時における試問への対応の仕方や内容を総合的に判断し，点数化して評価します。

［推薦入試］
県内高等学校等推薦と県内専門高等学校等推薦の２つの推薦枠があります。県内高等学校等推薦は，入学者選抜の基本方針（１）のアを重視した推薦枠で，県内専門学校等推薦は（１）のイを重視した推薦枠です。なお，基本方針（１）に掲げた能力を確認するために大学入試センター試験を課しています。あわせて，（２），（３），（４）に掲げた能力（思考・判断力など）を備えているかどうかを確認するために面接を行います。大学入試センター試験の成績，書類審査の内容，面接の内容などを総合的に判断し，選抜します。なお，大学入試センター試験では，理科について，教科書レベルの基礎的な学力を備えているかどうかを確認します。面接では，健康や健康科学についての関心や学習意欲，またそれらに関する知識についての試問を行います。また，面接では，理科（化学基礎又は生物基礎のいずれかを選択）について，教科書レベルの基礎的事項について試問を行いますが，本学科で学ぶために必要となる論理的思考力や理解力，まとめる力などについて評価することを目的として実施しています。面接時における試問に対する対応の仕方や内容などを総合的に判断し，点数化して評価します。

［社会人特別選抜］
入学者選抜の基本方針の（１）～（４）を重視した小論文（説明文の作成を含む。）と面接を行います。小論文では，論文や資料・図表などを題材として，「健康科学科で学ぶ上で必要な読解力，論理的思考力，文章表現力などをみるための設問」と「理科（化学基礎及び生物基礎）の学力をみるための設問」を行い，これらを総合的に判断し，点数化して評価します。面接では，志望理由，健康科学に対する興味・学習意欲，健康や健康科学に関する知識について試問し，論理的思考力や理解力を問い，その対応の仕方や内容などを総合的に判断し，点数化して評価します。小論文及び面接の得点と，出願書類（TOEFL 又は TOEIC の結果を含む。）の内容を総合して選抜します。

［外国人留学生特別選抜］
入学者選抜の基本方針の（１）～（４）を重視した面接を行います。面接では，志望理由，健康や健康科学についての興味や学習意欲，それらに対する知識，さらには理科に関する基礎的事項について，試問します。面接時における試問に対する対応の仕方や内容などを総合的に判断し，点数化して評価します。なお，日本留学試験の日本語及び理科（化学，生物）の結果並びに TOEFL 又は TOEIC の結果を総合して選抜します。

◎経営情報学部

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

１　基本理念
経営情報学部では，社会のグローバル化・情報化が進展する中で，企業や行政，ＮＰＯなどの組織が直面する様々な課題を，経営学と情報学の双方の視点から学際的に教育・研究し，高度な専門知識や最新の経営手法，情報技術を教授します。本学部では，少人数教育に基づき，早い学年から専門の基礎理論及び情報活用力やビジネスデザイン力など実践的教育を学び，さらに高学年では各分野における専門知識を身につけるための多くの教育プログラムが用意されています。自分の関心や希望する進路に従って授業科目を選択でき，専門的な知識や技術を身につけることができます。自ら課題を発見し，その課題に挑戦する意欲を持ち，経営と情報の革新（イノベーション）を実現しようとする人を求めています。最先端の経営学と情報学の修得に熱意を持つ学生の入学を期待しています。

２　人材育成目標
（１）経営学科では，ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を達成するため，経営戦略マーケティング，会計ファイナンス，公共経営の３つの専門分野を設定し，これらを幅広く学ぶことにより，企業や行政，NPO など多様な組織活動の担い手

となることができる人材の育成を目指します。

（2）経営情報学科では，ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を達成するため，情報システムの企画・設計開発・運用管理の能力を身につけ，企業や社会の情報化に寄与できる「情報化推進者」及び情報産業界において情報システムの開発を行う「情報処理技術者」の育成を目指します。

◎経営学科

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1　基本理念

企業や行政団体，NPO などの組織とそれを取りまく環境との相互依存関係を究明し，また学問的に発展させて，その成果を実社会に活かすことを目的としています。

2　人材育成目標

（1）経営戦略マーケティング，会計ファイナンス，公共経営などに関する高度な専門知識を身につけた人材
（2）組織における人事，会計に関する高度な専門知識を身につけた人材
（3）地域活性化の意志を持ち，その担い手になりえる人材
（4）公認会計士，ファイナンシャル・プランナー，税理士，中小企業診断士といった専門職を目指す人材
（5）地域社会や国際社会において自ら課題を発見し，解決する能力を身につけた人材

3　求める学生像

（1）高等学校で英語，国語，社会，数学，理科に関して十分な基礎学力を持つ人（知識・能力）
（2）社会のしくみや企業の活動を理解することに意欲や関心を持つ人［社会科学に興味を持つ人］（意欲・関心）
（3）社会科学を学ぶことで自己を確立し，さまざまな事柄に対して自分の判断力を高めたいと考えている人（目標・意欲）
（4）経営・経済・社会の専門知識を身につけて，それを活かした社会・地域への貢献や活動などに関心のある人（関心）
（5）経営・経済・社会の専門知識を身につけて，それを活かした職業につきたいと思っている人（目標・意欲）

4　入学者選抜の基本方針

一般選抜（前期日程，後期日程）のほか，推薦入試（県内高等学校等推薦，県内専門高等学校等推薦，全国高等学校等推薦），社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜を実施し，求める学生像に従った人材を受け入れることを目指しています。

［一般選抜（前期）］
高等学校の基礎的な学力を修得した学生を選抜するため，大学入試センター試験は５教科５科目（又は６科目）とし，個別学力検査では国語と外国語を課します。

［一般選抜（後期）］
高等学校の基礎的な学力を修得した学生を選抜するため，大学入試センター試験は５教科５科目（又は６科目）とし，個別学力検査では外国語を課します。

［推薦入試］
小論文，面接，提出書類を総合して選考します。小論文では経営学を学ぶ上での基本的な理解力，思考力，文章力などをみます。面接では本学科進学の目的意識，学習意欲，論理的思考力，高等学校時の活動実績等を点数化して評価します。

［社会人特別選抜］
小論文，面接，提出書類を総合して選考します。小論文では経営学を学ぶ上での基本的な理解力，思考力，文章力などを点数化して評価します。面接では本学科進学の目的意識，学習意欲，経済社会への知的好奇心等をみます。

［外国人留学生特別選抜］
日本留学試験の日本語及び総合科目の結果，及び TOEFL 又は TOEIC の結果，並びに本学で実施する面接を総合して選考します。面接は，経営学科で学ぶことに対する意欲・志向・日ごろの関心事などについて質問し，これらに対する応答の能力や内容，態度などを総合的に判断し，点数化して評価します。

◎経営情報学科

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1　基本理念

企業や行政などの情報化や知識産業化に必要な情報学について，基礎から応用まで幅広い視点から学際的に分析し，また学問的に発展させることにより，豊かなデジタル社会を構築することを目的としています。

2　人材育成目標

（1）企業や社会で，情報システムの企画・設計開発・運用管理の面において活躍したいと考える人材（情報化推進者を目指す人材）

（２）情報産業界において，それぞれ固有の問題を解決できる，情報システムを開発したいと考える人材（情報処理技術者を目指す人材）
（３）環境や社会に情報を活用することにより，エコ社会の実現に向け，環境に関する種々の問題を解決したいと考える人材（エコ社会の実現に興味がある人材）
（４）知的創造に関心を持ち，新しい産業やベンチャーの創出を推進したいと考える人材（創造力のある人材）

３　求める学生像

（１）高等学校で数学，英語，国語，理科，社会に関して十分な基礎学力を持つ人［特に数学が好きな人］（知識・能力）
（２）コンピュータの仕組みや情報セキュリティ，情報ネットワークなどの理解に意欲や関心を持つ人［情報学に興味を持つ人］（意欲・関心）
（３）基本情報技術者などの資格を取得し，社会で活躍したいと考えている人（目標・意欲）
（４）情報学の専門知識とスキルを身につけ，それを活かした社会・地域への貢献や活動などに関心のある人（関心）
（５）情報学の専門知識とスキルを身につけ，それを活かした職業に就きたいと思っている人（目標・意欲）

４　入学者選抜の基本方針

一般選抜（前期日程，後期日程）のほか，推薦入試（県内高等学校等推薦，県内専門高等学校等推薦，全国高等学校等推薦），社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜を実施し，求める学生像に従った人材を受け入れることを目指しています。

［一般選抜（前期）］
基礎学力の把握のため，大学入試センター試験（５教科６科目（又は７科目））及び個別学力検査（数学，外国語）により評価します。

［一般選抜（後期）］
基礎学力の把握のため，大学入試センター試験（５教科６科目（又は７科目））及び個別学力検査（数学）により評価します。特に，数学の得意な学生を選抜したいため，個別学力検査の配点を高くしています。

［推薦入試］
書類審査，小論文及び面接の結果を総合して選抜します。小論文では，課題に対する理解力，論理的思考力及び文章表現力などを点数化し総合的に評価します。また，面接では，志望動機・意欲，論理的思考力，情報についての関心度などを点数化して評価します。

［社会人特別選抜］
書類審査，小論文及び面接の結果を総合して選抜します。小論文では，課題に対する理解力，論理的思考力及び文章表現力などを点数化し総合的に評価します。また，面接では，志望動機・意欲，情報についての関心度などを点数化して評価します。

［外国人留学生特別選抜］
日本留学試験の日本語及び数学の結果，及び TOEFL 又は TOEIC の結果，並びに本学で実施する面接を総合して選考します。面接では志望動機，学習意欲，情報についての関心度などを点数化して評価します。面接は，経営情報学科で学びたいという志望動機・意欲，情報についての関心度などについて質問し，これらに対する応答の能力や内容などを総合的に判断し，点数化して評価します。

◎生命環境学部

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

生命環境学部では，人類社会の福祉に貢献できる人材，人類の生活基盤である環境の保全に貢献できる人材を育成することを基本理念としており，地球規模の問題を解決するグローバルな視点と地域の問題を解決するローカルな視点を合わせ持つ，技術者及び研究者の育成を目指しています。そのため本学部では，生命科学と環境科学の課題について柔軟に思考・判断し，問題解決に必要な知識や技能を積極的に学修し，周囲と協働しながらその問題解決に向けて主体的に努力し，解決策を発信していく熱意と行動力を持った人を求めています。

◎生命科学科

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

１　基本理念

生命科学の学問体系はこれまで細分化されていた分野を融合する方向にシフトしています。近年，先端的な技術の発展，新しい現象・原理の解明が進み，幅広い諸技術を融合させたバイオテクノロジー領域の発展がますます期待されています。生命科学科では，生命体の分子・細胞レベルから個体レベルまでの総合的な教育を行い，医療，健康，食料などの問題解決につながる研究を通じ，「地域産業の再生と新規産業の創成」に寄与し，人類社会の福祉に貢献できる人材の育成を目指します。

２　人材育成目標

●応用生命科学コース

生命現象や生体機能の解明と応用は，医薬，医療，健康，バイオ産業など幅広い分野に新たな科学的知見と可能性をもたらし，人類の生存や繁栄に大きく貢献する力をもっています。応用生命科学コースでは，生命科学・生物工学に関連する諸問題を解決へと導くための学力と技術, そして思考能力を兼ね備えた技術者あるいは研究者を目指す人を受け入れることを基本とし，産業のさらなる発展や新たな成長分野の創成に寄与し，人類の生存や福祉（健康と幸福）へ貢献できる人材の育成を目指します。

●食品資源科学コース

食品資源は人類の生存と健康の維持に欠かせないものであると認識し，かつ，食品，生物資源，環境問題に関心を持ち，社会が抱えるさまざまな問題を解決しようとする意欲あふれる学生を受け入れることを基本とし，食品や生物資源に深くかかわる産業の創成と発展に貢献する人材の育成を目指します。

３　求める学生像

●応用生命科学コース

（１）生命科学・生物工学に強い関心を持ち，生命機能の解明や新規生物資源の探索とその応用による社会貢献に興味のある人
（２）医療・医学分野への貢献，医薬品・化粧品・健康食品の開発，生命現象や新規生物資源の探索とその応用に関わる研究に興味がある人
（３）将来，医療や医薬などのライフサイエンス，バイオサイエンス分野に関わる仕事をしたいと考える人
（４）実験や研究によって自ら問題を解決し，新しい発見・発明を目指す知的探求が好きな人
（５）大学院に進学し，高度な能力と技術を身につけようとする人

●食品資源科学コース

（１）食と健康に強い関心を持ち，食品資源の専門的知識・技術によって人類の生存や福祉へ貢献する意欲がある人
（２）生命科学や社会経済の知識を積極的に吸収し，科学技術の発展を通じて社会に貢献しようとする技術者・研究者を目指す人
（３）柔軟な思考と実践力を身につけ，地域や国際社会が抱える多様な問題に対し粘り強く果敢に立ち向かい解決しようとする人
（４）実験や研究によって自ら問題を解決し，新しい発見・発明を目指す知的探求が好きな人
（５）大学院に進学し，高度な能力と技術を身につけようとする人

４　入学者選抜の基本方針

次の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させます。

【知識・技能】

・高等学校までに履修する国語，数学，外国語，理科について内容を理解し，基本的な知識，学力を有している。
・科学的な物事に関心を持ち，多面的かつ論理的に説明することができる。

【思考力・判断力・表現力】

・自分の意見や考えを口頭や文章で的確に表現し，伝えることができる。

【主体性・協働性】

・能動的に学ぶ姿勢・意欲をもち，向上心をもって物事に取り組むことができる。
・生命科学，農業，食品に関わる諸問題に深い関心を持ち，積極的に社会や地域に貢献する意欲がある。
・他者と協力して問題の解決に取り組むことができる。

［一般選抜（前期）］

高等学校で履修した主要教科・科目についての学力を評価するため，本学の個別学力検査（数学，理科）と大学入試センター試験（５教科７科目）を課し，これらの結果を総合して選抜します。

［一般選抜（後期）］

高等学校で履修した主要教科・科目についての学力を評価するため，本学の個別学力検査（数学，理科，外国語）と大学入試センター試験（５教科７科目）を課し，これらの結果を総合して選抜します。本入試では，個別学力検査の結果を重視します。

［推薦入試］

小論文と面接及び提出書類を総合して選抜します。面接では，志望動機，生命現象に対する問題意識，意欲，論理的思考，表現力などを総合的に判断し，点数化して評価します。なお，合格者に対する入学前学習として，大学入試センター試験を利用します。

［社会人特別選抜］

小論文と面接及び提出書類を総合して選抜します。面接では，志望動機，生命現象に対する意識，勉学意欲，論理的思考，表現力などを総合的に判断し，点数化して評価します。

［帰国生徒特別選抜］

小論文と面接及び提出書類を総合して選抜します。面接では，志望動機，生命現象に対する意識，勉学意欲，論理的思考，表現力などを総合的に判断し，点数化して評価します。

［外国人留学生特別選抜］

小論文と面接及び日本留学試験の結果を総合して選抜します。また，TOEFL 又は TOEIC のスコアを参考にします。面接では，志望動機，日本社会，文化に対する理解，幅広い基礎学力，生命現象に対する意識，勉学意欲，論理的思考，日本語の表現力などを点数化して評価します。

◎環境科学科

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1　基本理念

人間の活動は，時に環境との間に軋轢（あつれき）を生むこともあります。この人間と環境との間に生じた問題を考えるためには，過去から現在までの知見を基に，科学的な観点で俯瞰（ふかん）的，客観的に判断することが極めて重要です。環境科学とは，化学，物理，生物をはじめとし，数学や社会科学等の分野も含む，さまざまな学問を分野横断的に捉え，人間と環境との間の問題を考える「科学」です。

これらを踏まえ，環境科学の視点から，地域のみならず地球規模までの環境にかかわる多様な課題に取り組み，明るい未来の創造に貢献できる人材を育成します。

2　人材育成目標

地域及び国際社会が直面する環境にかかわる多様な課題を的確に捉えられるように，環境科学の知識を分野横断的に修得します。それらを基に，環境と真摯に向かい合い，総合的な観点で，課題の解決はもちろんのこと，未然防止や新たな問題への対応も可能な人材を育成します。

【知識・技能】

・環境にかかわる様々な事象の物理学・化学・生物学的な分析や評価を行うための基礎となる技能や知識を修得している。
・環境保全や修復あるいは資源の循環利用技術に関する理論体系を修得している。
・環境保全の実施や持続可能な社会経済システムの構築を行う上で必要となる法律や社会制度に関する知識を修得している。

【思考力・判断力・表現力】

・さまざまな分野にまたがる環境課題に対して柔軟に思考できる。
・他者の意見を尊重しつつ，解決策を提案できる。
・科学的・技術的な見地から正しい知識を社会に分かりやすく発信できる。

【主体性・協働性】

・環境に関する事象の分析・評価や，環境の保全・修復に関する技術・システムの運用を率先して実施することができる。
・新たな手法の修得や開発に対して積極的に取り組むことができる。
・コミュニケーションを取りながら問題解決にあたることができる。

3　求める学生像

（１）広く環境に興味をもち，自ら学ぶ意思と知識を得るための積極性を有している人
（２）科学を学ぶ者としての倫理観を理解し，自らを律しようとする人
（３）分野横断的に環境科学にかかわる知識を深く学ぼうとする人
（４）学んだ知識をもとに俯瞰（ふかん）的に課題の本質を捉え，明るい未来の創造に貢献しようとする人
（５）大学院に進学し，高度な能力と技術を身につけようとする人

4　入学者選抜の基本方針

【知識・技能】

・高等学校の教育課程の基本的な学力を備えているかどうかを重視します。
・高等学校の教育課程における物理，化学，生物に関する十分な学力を備えていることを求めます。

【思考・判断・表現】

・広い視点で物事を捉え，科学的に判断しようとする姿勢を重視します。
・自分の意見を表現できるとともに，多くの意見を傾聴できるコミュニケーション能力を求めます。

【主体性・協働性】

・人と環境の間に生じるさまざまな問題に興味を持ち，その解決に向けて主体的に貢献しようとする意欲と行動力を求めます。
・生涯にわたり学び続け，明るい未来の創造に貢献できる意欲を持つことを求めます。

［一般選抜（前期）］

高等学校で履修した主要教科・科目についての基礎知識を評価するため，本学の個別学力検査（数学，理科）と大学入試センター試験（５教科７科目）を課し，これらの結果を総合して選抜します。

［一般選抜（後期）］

高等学校で履修した主要教科・科目についての基礎知識を評価するため，本学の個別学力検査（数学，理科，外国語）と大学入試センター試験（５教科７科目）を課し，これらの結果を総合して選抜します。本入試では，個別学力検査の結果を重視します。

［推薦入試］

小論文と面接及び提出書類を総合して選抜します。面接では，環境についての問題意識，意欲，論理的思考，表現力などを点数化して評価します。なお，合格者に対する入学前学習として，大学入試センター試験を利用します。

［社会人特別選抜］

小論文と面接及び提出書類を総合して選抜します。面接では，職業経験を通して得られた環境問題に対する意識，勉学意欲，

論理的思考，表現力などを点数化して評価します。

［帰国生徒特別選抜］
小論文と面接及び提出書類を総合して選抜します。面接では，国外生活の経験を通して得られた環境問題に対する意識，勉学意欲，論理的思考，表現力などを点数化して評価します。

［外国人留学生特別選抜］
小論文と面接及び日本留学試験の結果を総合して選抜します。また，TOEFL 又は TOEIC のスコアを参考にします。面接では，環境問題に対する意識，勉学意欲，論理的思考，日本語の表現力などを点数化して評価します。

◎保健福祉学部

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

県立広島大学のアドミッション・ポリシーのもと，保健福祉学部には，保健・医療・福祉の対象となる人々に専門的立場からチームワークを通して寄与することができる人材の育成が求められています。
保健福祉学部は，高校で学ぶ基本的知識を身につけ，人に対して関心があり生命に対する倫理観を持った，入学後も生涯にわたり学び続けることができる意欲がある，柔軟性と協調性を有する学生を求めます。

◎看護学科

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1　基本理念

保健・医療・福祉の対象となる人々に全人的な対応ができ，看護の専門職業人として社会的責任を自覚しながら，高度な知識・技能，思考力・判断力・表現力等の能力，多様な人々と協働する主体的な態度によって広く貢献する看護師，保健師を育成します。
また，他職種との連携において自ら進んで看護の役割を果たすことができ，生涯にわたり学修し成長し続ける資質を育てます。

2　人材育成目標

生命への尊厳をもって全人的に援助できる看護の専門性とあらゆる健康状態にある人々のニーズに対応できる知識・技能，思考力・判断力・表現力などの能力，多様な人々と協働する主体的な態度によって地域社会で活躍できる人材を育てます。

【知識・技能】
- 成長発達段階と健康段階，さらに場と状況の特性に応じた看護実践に役立つ知識を身につけることができる。
- 生命への尊厳と人類愛に満ちた人間性をもち，倫理的な配慮をしながら確実に看護技術を提供することができる。
- 保健・医療・福祉の対象となる人々の総合的な理解と全人的な対応力をもつことができる。

【思考力・判断力・表現力】
- 多様な価値観を受け入れる柔軟性を備え，論理的に思考し，客観的な判断を下すことができる。
- 自分の意見や考えを表現し，相手の気持ちや意見が傾聴できるコミュニケーション能力を身につけることができる。

【主体性・協働性】
- 科学的探究心と創造性，自ら学び生涯にわたって看護職として専門性を発揮しようとする意欲をもつことができる。
- 他職種と連携しながら自ら進んで看護の役割を果たすことができる。

3　求める学生像

（1）生命への尊厳をもち人類愛に満ちた人間性豊かな人
（2）科学的探究心と自ら学ぶ学修意欲のある創造性豊かな人
（3）多様な価値観を受け入れる柔軟性と協調性のある人
（4）生涯にわたって専門性を発揮しようとする意欲と行動力を備えた人
（5）地域社会や国際社会への貢献に関心のある人

4　入学者選抜の基本方針

【知識・技能】
- 高等学校の教育課程における基本的な学力を備えているかどうかを重視します。
- 生命への尊厳と人類愛に満ちた人間性をもち，責任ある行動がとれることを求めます。

【思考力・判断力・表現力】
- 多様な価値観を受け入れる柔軟性と客観的な判断を下せる能力を備えていることを求めます。
- 自分の意見や考えを表現し，相手の気持ちや意見が傾聴できるコミュニケーション能力を求めます。

【主体性・協働性】
- 科学的探究心と創造性，自ら学び生涯にわたって学び続けようとする意欲と行動力を求めます。
- 看護に関わる諸問題に関心を持ち，チーム医療の中で積極的に貢献できる意欲をもつことを求めます。

［一般選抜（前期・後期)］
高等学校での教科面における学習の達成度をみるため，大学入試センター試験を課しています。また，個別学力検査については，面接により，保健・医療・福祉を担う人材としての探究心，思考力，表現力，コミュニケーション能力，学修意欲，倫理観などを総合的に判断し，評価します。

［推薦入試］
小論文と面接を行います。小論文では，著書，論文，評論，資料などを題材とする問題で，読解力，洞察力，論理的思考力，文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し，評価します。面接では，保健・医療・福祉を担う人材としての探究心，思考力，表現力，コミュニケーション能力，学修意欲，倫理観などを総合的に判断し，評価します。

［社会人特別選抜］
小論文と面接を行います。小論文では，著書，論文，評論，資料などを題材とする問題で，読解力，洞察力，論理的思考力，文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し，評価します。面接では，保健・医療・福祉を担う人材としての探究心，思考力，表現力，コミュニケーション能力，学修意欲，倫理観などを総合的に判断し，評価します。

◎理学療法学科

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1　基本理念
医療・保健・福祉分野の対象者が持つ多種多様な問題に対して医療専門職としての誇りを持って，先端医療施設における最新治療から地域包括ケアシステムにおける予防医学・健康増進をマネジメントし，生活指導まで実践できる理学療法士を育成します。

2　人材育成目標
（1）理学療法の専門知識と技術の修得はもとより，医療専門職としての豊かな人間性と教養を持った理学療法士
（2）医療専門職としての役割と責任を理解し，チームの中で役割をマネジメントし，自分の役割に責任を持って行動できる理学療法士
（3）科学的思考力や探求心を持ち理学療法分野において研究活動もできる理学療法士
（4）多様な価値観を受け入れ，全ての対象者に適切な理学療法を提供できる理学療法士
（5）地域社会や国際社会に貢献するために生涯にわたり学修する理学療法士

3　求める学生像
（1）豊かな人間性を持ち，多様な価値観を受け入れ相互理解に努め，自己表現ができる人
（2）主体性と協働性を兼ね備え，チームで活動できる人
（3）自ら学ぼうという学修意欲を持つ人
（4）諸問題に臨機応変に対応できる基礎学力，理解力を持ち自ら判断し行動できる人
（5）保健医療福祉関係の仕事に対する強い意志を持つ人

4　入学者選抜の基本方針
（1）**【知識・技能】**
・入学後の修学に必要な基礎的な学力を備えているかどうかを重視します。
（2）**【思考力・判断力・表現力】**
・さまざまな側面から論理的に思考し，多様な価値観を受け入れた上で客観的な判断を下せる能力を備えていることを求めます。
・建設的な議論ができ，自分の考えを適切に表現する能力を備えていることを求めます。
（3）**【主体性・協働性】**
・医療及びリハビリテーション領域の情報に関心を持ち，それらの情報を理解しようと努力する態度を持っていることを求めます。
・チームで活動するために主体性と協働性を兼ね備えていることを求めます。
・理学療法学について生涯にわたり学修する意欲があり，地域社会や国際社会への貢献を目指す人を求めます。

［一般選抜（前期・後期)］
広範囲にわたる基礎学力の修得度を評価するための大学入試センターと本学で学ぶ目的と意欲を評価するための面接により選抜にします。
この選抜では，とくに基本方針（1）（2）（3）を重視します。
［推薦入試］
小論文では，課題に対する読解力，洞察力，論理的思考力，文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し，点数化して評価します。面接では，本学で学ぶ目的と意欲を評価します。
この選抜では，とくに基本方針（2）（3）を重視します。

［社会人特別選抜］
小論文では，課題に対する読解力，洞察力，論理的思考力，文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し，点数化して評価

します。面接では，本学で学ぶ目的と意欲を評価します。
　この選抜では，とくに基本方針（１）（２）（３）を重視します。

◎作業療法学科

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

１　基本理念

　作業を通じてその人にふさわしい生活を再建する作業療法士を育成します。身体や精神，発達などの障害があるクライアントを対象に，身辺処理，仕事，遊びなどあらゆる作業を通じて，心身機能の回復を図ったり，クライアントが望む生活を支援したりするための知識と技術を身につけ，チームを組みながら保健，医療，福祉に貢献できる人材の育成を目指します。

２　人材育成目標

　人の作業を科学的に捉える目を養い，多種多様な個別ニーズに対し，関連領域の専門職と連携してより的確なケアシステムを提供できる作業療法士を育成します。

３　求める学生像

（１）人の作業と健康に高い関心を持つ人
（２）多様な価値観を受け入れ，柔軟に他者と協働できる人
（３）好奇心を持って自主的に学べる人
（４）前向きに忍耐強く努力する人
（５）論理的に思考し科学的に探求する人

４　入学者選抜の基本方針

（１）**【知識・技能】**
・高等学校までに修得すべき基本的な学力を備えている。
（２）**【思考力・判断力・表現力】**
・柔軟で深い思考ができ，建設的，客観的に判断できる力がある。
・言語的な理解のみならず，状況や表情など非言語的な理解力も豊かに持ち，状況に応じて適切に表現できる能力を備えている。
（３）**【主体性・協働性】**
・作業療法や作業がうまくできない人々に関心があり，行動・態度に優れ，共感性，協働性が高く，卒業後も主体的に学び続け，行動することのできる意欲・積極性がある。

［一般選抜（前期・後期）］
　大学入試センター試験において，本学科が指定した教科・科目を受験した者を対象として面接を行います。大学入試センター試験の得点と，本学が行う面接の得点の合計点で合否を判定します。合格最低点での同点者は面接の得点の高い者を合格とします。大学入試センター試験では，入学者選抜の基本方針の（１）を中心に，基礎学力を評価します。面接では，質問に対する回答により，（２）（３）を評価します。

［推薦入試］
　本学が行う小論文と面接の得点の合計点で合否を判定します。合格最低点での同点者は面接の得点の高い者を合格とします。小論文では，課題に対する読解力，洞察力，論理的思考力，文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し，点数化して評価します。面接では，質問に対する回答により，（２）（３）を評価します。

［社会人特別選抜］
　社会人として特定の課題に取り組み，やり遂げた経験をもつ者を対象として本学が行う小論文と面接の得点の合計点で合否を判定します。合格最低点での同点者は面接の得点の高い者を合格とします。小論文では，課題に対する読解力，洞察力，論理的思考力，文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し，点数化して評価します。面接では，質問に対する回答により，（２）（３）を評価します。

◎コミュニケーション障害学科

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

１　基本理念

　コミュニケーション機能及び摂食嚥下(えんげ)機能は，個人生活及び社会生活を営む上で極めて重要な能力です。本学科では，コミュニケーション障害（ことばときこえの障害）及び摂食嚥下障害（食べること・飲み込みの障害）のある人を支援する言語聴覚士を養成します。
　複雑で多様な障害に対応できる幅広い知識と臨床技能を持ち，保健・医療・福祉分野を中心に地域社会の発展に寄与する有為な人材の育成を目指します。

２　人材育成目標

（１）言語聴覚士として，コミュニケーション及び摂食嚥下障害のある人を理解し，支援を行うための基礎的知識・技能を持つとともに，保健・医療・福祉におけるチームの一員としての役割と責任を果たせる人材を育成します。
（２）国家資格を取得することに加えて，幅広い教養と，コミュニケーションと摂食嚥下の障害に関する諸問題を科学的に捉え，課題を解決していくための学術的素養を身につけた人材を育成します。
（３）本学で身につけた臨床的・学術的能力を生涯を通じて自ら育み，保健・医療・福祉分野を中心に，将来，地域社会の発展を牽引する意欲を持つ人材を育成します。

３　求める学生像

（１）コミュニケーション及び摂食嚥下機能と，その障害について深く学びたい人
（２）コミュニケーション障害・摂食嚥下障害のある人を理解し，保健・医療・福祉の向上に貢献する熱意のある人
（３）コミュニケーション障害学とその基盤となる学問分野を理解し，諸問題に柔軟に対応するための基礎学力と主体的に学ぼうとする姿勢を持つ人
（４）自分も相手も大切にして，おたがいに理解するための努力をしながら，協力していくことができる人

４　入学者選抜の基本方針

【知識・理解】
高等学校で履修した教科・科目について教科書レベルの知識を十分に身につけていることを求めます。

【思考力・判断力】
著書，論文，評論，資料などを論理的に正しく読み解き，課題に対して適切な判断を下す思考力を備えていることを求めます。

【関心・意欲・態度】
コミュニケーション障害や摂食嚥下障害のある人の福祉に強い関心を持ち，他の専門職と連携してよりよい支援の実践に真摯に努力し，主体的に社会に貢献する意志を持っていることを求めます。

【技能・表現力】
他者の意図を適切に汲み取る理解力と，自分の考えを相手に分かりやすく表現する力を備えていることを求めます。

［一般選抜（前期）］
「自ら学ぶ能力」の基盤となる基礎学力の把握のため，大学入試センター試験を課すとともに，小論文では，課題に対する読解力，洞察力，論理的思考力，文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し，点数化して評価します。また，学修への意欲と専門分野への適性を把握するため，面接における質問に対する理解力，判断力，表現力及び対応の仕方や態度などを総合的に判断し，評価します。

［一般選抜（後期）］
前期日程とは異なる資質・能力を持つ学生を選抜するため，「自ら学ぶ能力」の基盤となる基礎学力の把握を，大学入試センター試験の３教科３科目で行います。また，学修への意欲と専門分野への適性を把握するため，面接において質問に対する理解力，判断力，表現力及び対応の仕方や態度などを総合的に判断し，評価します。

［推薦入試］
広島県内高等学校等推薦枠及び全国高等学校等推薦枠を設けて募集します。小論文では，課題に対する読解力，洞察力，論理的思考力，文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し，点数化して評価します。また，本学科進学の目的意識，学修への意欲，専門分野への適性を把握するため，面接で，学修への意欲や堅実性などについて質問し，理解力，判断力，表現力及び対応の仕方や態度などを総合的に判断し，評価します。

［社会人特別選抜］
言語聴覚士への目的意識と学修への意欲が高い人を選抜します。小論文では，課題に対する読解力，洞察力，論理的思考力，文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し，点数化して評価します。また，本学科進学の目的意識，将来への展望，学修への意欲，専門分野への適性を把握するため，面接で，学修への意欲と堅実性などについて質問し，理解力，判断力，表現力及び対応の仕方や態度などを総合的に判断し，評価します。

◎人間福祉学科

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

１　基本理念

主に，保健・医療・福祉分野において，身体的・精神的・社会的援助を必要とする人々への福祉に関する相談援助などに応じて，関係者との連絡調整を図りながら，包括的な地域のネットワークづくりを先導していく高度な専門的知識・技術と豊かな人間性を備えた人間福祉に資する福祉人材（社会福祉士と精神保健福祉士）を育成することを目指します。

２　求める学生像

下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させます。
（１）入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や技能を有している人
・高等学校で履修する国語，外国語などの科目についてその内容を理解し，高等学校卒業相当の知識を有している人

（２）物事を多面的かつ論理的に考察することができる人
（３）自分の考えを的確に表現し，伝えることができる人
（４）日々の授業のなかで積極的に他者とかかわり，対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している人
（５）人間が社会生活を営む上で生じるさまざまな課題に対して，深い関心をもち，社会に積極的に貢献する意欲がある人

３　入学者選抜の基本方針

【知識】
高等学校までに習得すべき学力を求めます。特に，文章や資料を正確に読解する力，社会問題に対する柔軟で幅広い理解力，コミュニケーションの基礎となる語学力（国語や英語など）を持つことを求めます。

【思考力・判断力】
様々な情報を収集して，論理的に思考し，的確な判断や推理を行う力を求めます。

【関心・態度・姿勢】
日々の生活で起きる様々な社会的事象に対して関心を持ち，多様な価値観をふまえながら，自分なりの意見や考えを培う態度や姿勢を求めます。

【技能・表現力】
他者の意見や考えを傾聴し尊重しながら，自分なりの意見や考えを適切に表現するなど，建設的な議論ができるコミュニケーション能力を備えていることを求めます。

［一般選抜（前期・後期)］
高等学校での教科面における学習の達成度をみるため，大学入試センター試験を課しています。大学入試センター試験では，国語，英語とともに自分の得意とする科目の基礎的な学力を判定します。加えて小論文では，課題に対する読解力，洞察力，論理的思考力，文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し，点数化して評価します。
また，一般選抜（前期日程・後期日程）における出願書類に「志望理由書」を加え，面接では，志望理由書とあわせて，福祉に対する興味，学習意欲などについて質問し，判断力，表現力，論理的思考力，理解力などを総合的に判断し，点数化して評価します。

［推薦入試］
基礎学力を把握するため，小論文を実施します。小論文では，課題に対する読解力，洞察力，論理的思考力，文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し，点数化して評価します。
加えて，人間福祉学科志望の動機，勉学への意欲，専門分野への意欲と適性を把握するため，面接を実施し，理解力，判断力，表現力などを総合的に判断し点数化して評価します。小論文及び面接の得点の合計点で合否を判断します。

［外国人留学生特別選抜］
試験は，小論文及び面接です。合否の判定については，小論文及び面接の得点と，日本留学試験の得点の合計点及びTOEFL又はTOEICのスコアを総合的に審査し判定します。

◎助産学専攻科

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1.　基本理念
女性の各ライフサイクルにおける助産に必要な専門知識と実践力を有し，地域社会の母子保健の発展に貢献できる豊かな人間性を有する助産師を育成します。

2.　人材育成目標
(1)　女性とその家族の健康問題や地域の課題に関心を持って取り組める助産師
(2)　多様な価値観を柔軟に受け入れ理解できる助産師
(3)　女性とその家族に寄り添い，かつ理知的な判断ができる助産師
(4)　職業的アイデンティティを持ち，他職種とともに活動できる助産師

3.　求める学生像
(1)　諸問題を多角的に捉え柔軟に対応するために必要な，幅広い基礎学力を有している人
(2)　積極的に他者と関わり，相互理解に努めようとする態度を有している人
(3)　看護を基盤とした倫理観，コミュニケーション能力を有している人
(4)　助産の基礎を学ぶために必要な看護の学力と技術を有している人
(5)　助産に対する課題に関心を持ち，解決する意欲と行動力を有している人

4.　入学者選抜の基本方針
(1)　知識・技能
- 看護の基礎知識と技術を修得しているかどうかを重視します。
- 広く社会に関心を持ち，課題を探求する態度が涵養されていることを求めます。

(2)　思考力・判断力・表現力
- 客観的事実や科学的根拠に基づき論理的に意見を述べる能力を求めます。
- 課題解決に向け発展的な態度で意見を述べられる能力を求めます。

(3)　主体性・協調性

- 助産師として社会に貢献する意欲が備わっていることを求めます。
- 他職種と協調して課題を解決する志向を備えていることを求めます。
- 自律して学修できる能力を求めます。

[本学枠]
本学看護学科 4 年生及び看護学科卒業生を対象に，母性看護学と小児看護学に関する学力試験，本学看護学科での成績，面接により選抜します。

[広島県内枠]
本専攻科を修了後，広島県で助産師として勤務する者を対象に，母性看護学と小児看護学に関する学力試験と面接により選抜します。

[一般枠]
母性看護学と小児看護学に関する学力試験と面接により選抜します。